

現代中国語の副詞“也”の多義性について

On Polysemy of the Modern Chinese Adverb “也”

李 智麗

LI Zhili

現代中国語の副詞“也”は多義性を持ち、コンテキストが不明な場合は、“也”が含まれる文は複数の意味に解釈され、文の意味が曖昧になってくる。この曖昧性は中国語を母語としない人々の中国語学習上での妨げになっている。現代中国語では、副詞の“也”は極めて頻繁に使用されているが、“也”の多義性に関する研究については未だ十分とは言えない。そこで、本稿では主に現代中国語の副詞“也”を中心的な対象として、中国語と日本語の文学作品から採集した用例を基に、取り立て詞のスコープとフォーカスの視点から“也”における多義性を考察するものである。取り立て詞のスコープとフォーカスという概念について、沼田(1995)では、次のように定義している。

取り立て詞は、すべて取り立てのスコープを持っている。取り立てのスコープとは、取り立て詞が文中で意味的に影響を及ぼし得る最大の領域で、当該取り立て詞によって、他と範列的な対立関係をなすと捉えられる、文中の範囲である。取り立てのスコープは、取り立て詞の分布及び文脈等の情報による、統語論的側面と語用論的側面の両方から規定されるものである。

取り立てのフォーカスとは、取り立てのスコープ内にある要素で、文脈等の語用論的情報から、他との範列的な対立関係を集約的に表す要素(つまり自者)、と捉えられる構成素の範囲である。最大のフォーカスはスコープと一致する。

“也”は以下のような二つの統語論・意味論的特徴をもつと考えられる。

“也”は同じ文中位置でありながら、意味的にいくつかの要素を取り立てることができる。それは“也”が典型的な副詞で、主語の後、述語の前に置かれなければならないという制限が課せられているからである。

“也”という副詞は「類似追加」という基本義のほかに、「極端な場合の例示」という派生義を持つ「多義語」である。

“也”が具体的に文中の要素を取り立てる取り立てスコープとフォーカスの概念を取り入れて考察する。“也”との相対位置から、“也”の取り立てスコープは「直前スコープ」、「後方スコープ」、「内包スコープ」の三つのパターンに分類することができ、それぞれの特徴をまとめると、以下ようになる。

「直前スコープ」

主語、時間副詞、“在”、“对”、“给”、“把”などの介詞によって導かれる介詞連語などの成分が“也”の前に現れる場合、“也”の直前に位置する要素がスコープ化しやすい傾向が見られる。スコープとフォーカスは一致している。

「後方スコープ」

“也”は“也”の直前の要素だけではなく、後にある要素を取り立てることもできる。この場合、“也”は必ずしも“也”の直後にある要素をスコープにするとは限らない。スコープとフォーカスが一致している場合もあれば、一致しない場合も存在する。

「内包スコープ」

“也”が含まれる文を取り立てる。スコープとフォーカスが一致しないのがほとんどである。

「類似追加」の意味を表す“也₁”と「極端な場合の例示」の意味を表す“也₂”には相違がある。“也₁”は「直前スコープ」、「内包スコープ」、「後方スコープ」のすべてが可能であるが、「極端な場合の例示」の意味解釈を許すのは「直前スコープ」、「内包スコープ」だけである。さらに、“连”有無、コンテキストと「羅輯重音」との関係から、“也”の二つの意味の相違を明らかにした。

“也”における多義性という現象はどのように解釈すれば良いのか、その多義性をもたらす原因は何なのか、どういう場合に多義性が現れるのかが問題になってくる。また、実際の会話の中で、何故、中国語母話者同士が“也”の多義性に迷いなく、意思疎通をスムーズに行うことができるのかを考察する。一方、ポーズの有無やストレスの有無などという音声的特徴から“也”の曖昧性をどういうふうにして解消できるのかを明確にしていきたい。

一般的に、中国語は語順依存度の高い言語だと言われる。語順は比較的固定していて、文の意味を決定するのに大きな役割を果たしている。¹しかし、語順だけによっては、文の意味を必ずしも完全に表せない場合も存在する。例えば、ポーズやストレスのような音声的な要素が同言語における意味決定に深く関わっていると見られる。多義文と音声言語の韻律との関係について、多くの研究がなされてきた。例えば、趙元任(2002)、楊立明(2003)等がある。楊立明(2003)は文ストレスと「岐義文」との関係について、以下のように述べている。

最も早く「岐義文」と音声言語の韻律との関係を論じているのが趙元任である。趙 1980 は「副詞は必ず動詞の前に置かなければならないので、もしその修飾範囲が動詞だけに留まらず、他の語句にも及ぶ場合は意味曖昧な状況になることがある。このような曖昧文の意識識別には文の『軽重音の型』がしばしば寄与している。」趙 1988 は「直接成分による岐義問題は適当な渡り音とポーズによって解決できる。」とも言及した。

この観点から論考を行うにあたって、「句重音」という概念を援用したい。この概念は楊立明(2003)から取り入れたものである。楊氏の説を筆者の言葉で捉えると、以下のようになる。

文内部において、ある部分が他の部分より際立って強く発音されることがある。中国語学界では、語ストレスの「重音」と区別し、文ストレスのことを「句重音」²と呼んでいる。さらに、「句重音」には「語法重音」と「羅輯重音」に区別される。「語法重音」の位置は統語構造によって自動的に決まるものであるのに対し、「羅輯重音」の位置はフォーカスの位置に関係する。

¹ 香坂順一(1985)は中国語の特徴について、「中国語は語形変化がなく、しかも格を示す助詞がなければ、文の意味を決定するものは語序によらなければならない」と指摘している。その他にも、等がある。

² 馮蘊澤(2007)等では、「句重音」のことを「語句重音」、「文強勢」等とも呼んでいるが、本稿では、「句重音」に統一する。

前述したように、“他也要去杭州”のような同一形式には「彼も杭州へ行く」、「彼は杭州へも行く」、「彼は杭州へ行きもする」と「彼でさえも杭州へ行く」の四つの意味解釈が可能である。これは副詞“也”が同じ文中位置でありながら、取り立てスコープが違うため生じた曖昧現象である。書面では、“也”の取り立てスコープは「直前スコープ」、「後方スコープ」、「内包スコープ」のいずれかが可能であるにもかかわらず、どれなのかを確定できない。しかし、音声上では、ポーズの有無や「句重音」の有無によって、“也”の取り立てられる要素はどれなのかを区別することができる。

本稿では、意味と関係するポーズ、「羅輯重音」に注目し、考察を行う。ポーズの位置を|で、「羅輯重音」が掛かっている所を太字にして示す。以下の例(1)にポーズと「羅輯重音」を付加すると、以下のようになる。

- (1) a ^{Xiǎolǐ yě yào qù Hángzhōu}
 小李也|要去杭州。
 李さんも杭州へ行く。
- b ^{Xiǎolǐ yě yào qù Hángzhōu}
 小李(|)也要去杭州。
 李さんは杭州へも行く。
- c ^{Xiǎolǐ yě yào qù Hángzhōu}
 小李(|)也要去杭州。
 李さんは杭州へ行きもする。
- d ^{Xiǎolǐ yě yào qù Hángzhōu}
 小李也|要去杭州。
 彼でさえも杭州へ行く。

ポーズの置き方によって、文の意味が異なってくる場合がある。前述したように、副詞“也”の取り立てスコープは「直前スコープ」、「後方スコープ」、「内包スコープ」のいずれかが可能である。上記の例(66a)、例(66d)が示すように、“也”の後にポーズを入れれば、“也”の取り立てスコープは「直前スコープ」になる。一方、例(66b)、例(66c)が示すように、“也”とその後の要素はポーズなしで発音される時、“也”の取り立てスコープは「後方スコープ」になる。「内包スコープ」は両方の可能性があるが、詳細な分析は次節に譲る。

また、「羅輯重音」は文中のフォーカスの位置を明確にする手段だと言われる。「羅輯重音」の移動によって、フォーカスも移動し、文の意味が変化することもある。上記の例(1)のb、cにおける斜体字の部分が示すように、「羅輯重音」が目的語の“杭州”に掛かれば、“也”の取り立て対象は“杭州”になり、「羅輯重音」が動詞の“去”に掛かれば、“也”

は“去”を取り立てることとなる。また、“也”の前の主語“小李”に「羅輯重音」を付加すれば、“也”は「類似追加」ではなく、「極端な場合の例示」という解釈になる。この文は「(旅行が大嫌いな)李さんでさえも杭州へ行く」という「驚き」や「意外」の意味を表すこととなる。「羅輯重音」が掛かる箇所は“也”の取り立てる要素である。

以上から、ポーズの有無と「羅輯重音」が文の意味に関係していることが判明する。次に、それぞれがどういうふうに、意味と関連しているのかを考察する。

1 ポーズによって現れる音韻構造境界と意味の関係について

日本語では、一つの文は音韻構造境界の区別によって、意味が異なってくる場合が存在する。{ }の中はワンフレーズとして理解される。例えば、

(2) 父も卒業した学校に行く。

a 父も | 卒業した学校に行く。

b 父も卒業した学校に行く。

c {母は郷里を訪ねていて、}{今日は}{父も卒業した学校へ行ったので、}{二人とも留守です}。

(3) 英語も研究する人を採用する。

a 英語も | 研究する人を採用する。

b 英語も研究する人を採用する。

沼田 (1995) P.181

日本語で、「も」の後ろのポーズは、この「も」が「前方スコープ」でないことを示す。従い、例(67a)や例(68a)の意味は、父以外の誰かや英語以外に関しても「卒業した学校に行く」ことや「研究する人を採用する」とことと類似の事柄(例えば、「故郷に帰る」や「事務員を採用する」でもよい)が行なわれる、ということになる。これに対して、例(67b)、例(68b)のように文末まで句切りがない場合には、前方スコープの解釈が許容されるのだが、この場合でも「類似」部分がどこまでかによって複数の解釈が可能である。例えば、例(67a)は、誰か他の人も「卒業した学校へ行く」のかもしれないし、その学校を「卒業した」ということかもしれない。さらに、対句の場合には「内包スコープ」も可能である。

結論を言えば、「も」の後に句切りがあるかどうかは文の意味に影響する。このように、意味と句切りが1対1に対応しているわけではないが、「も」の解釈には句切りが影響す

ると言える。同様に、中国語で、ポーズが“也”の意味解釈に影響を与えるという現象も観察される。

1.1 “也”の取り立てスコープとポーズの関係

馮(2007)は中国語のポーズについて、以下のように説明している。

ポーズは、意味段落の境界に置かれるので、意味段落の領域が異なると、ポーズの置かれ方も異なることがある。特に、意味段落の領域によって文の意味が異なる場合、ポーズの置かれ方は強制的となる。

前述で分かるように、“也”の取り立てスコープは「直前スコープ」、「後方スコープ」と「内包スコープ」の三つに分けられる。取り立てスコープの種類によって、文の意味が異なってくる。馮氏の理論によれば、“也”の取り立てスコープによって文の意味が異なる場合、ポーズの置かれ方は強制的となる。以下の例文を参照されたい。

(4) a $\overset{Tā}{他} \overset{yě}{也} | \overset{xǐ\ huān}{喜欢} \overset{Liángzǐ}{良子}$ 。

彼も良子が好きだ。

彼でさえ良子が好きだ。

b $\overset{Tā}{他} (|) \overset{yě}{也} \overset{xǐ\ huān}{喜欢} \overset{Liángzǐ}{良子}$ 。

彼は良子も好きだ。

彼は良子を好きでもある。

c $\overset{Tā}{他} \overset{yě}{也} \overset{xǐ\ huān}{喜欢} \overset{Liángzǐ}{良子}$ 。

彼も良子が好きだ。

彼でさえ良子が好きだ。

彼は良子も好きだ。

彼は良子を好きでもある。

上記の例(69a)が示すように、“也”の取り立てスコープは「直前スコープ」の場合、“也”の表す意味は「類似追加」であれ、「極端な場合の例示」であれ、“也”の後にポーズが置かれる。“也”の前にポーズが置かれる場合もあれば、置かれない場合もある。一方“也”の取り立てるスコープは「後方スコープ」の場合、“也”の後にポーズなしで発音されるのが普通である。例えば、例(69b)では、“也”と“次郎”の間にポーズが置か

れることになる。“也”の前はポーズがあってもなくても良い。また、例(69c)のように、ポーズが置かれられない場合も存在する。通常、音韻構造の境界にポーズが置かれるべきだと考えられるが、特に短い文では、実際の会話で置かれられない場合もある。

つまり、一般的には、“也”の取り立てスコープが「直前スコープ」の場合、“也”の後にポーズが置かれる。それに対し、「後方スコープ」の場合、“也”の前は必ずしもポーズの置かれる場所ではない。“也”の後にはポーズが置かれられないのがほとんどである。

「内包スコープ」の“也”は両方の可能性があると考えられる。次の例文は「内包スコープ」の“也”が含まれる多義文である。

- (5) Jìngzhōng yǐngxiàng de qīngxī dù bìng méiyǒu jiǎnrùo chuāngwài de dēnghuǒ 。
鏡 中 映 像 的 清 晰 度 并 没 有 减 弱 窗 外 的 灯 火 。
dēng huǒ yě méiyǒu bǎ yǐngxiàng mǒ qù
灯 火 也 没 有 把 映 像 抹 去。

この鏡の映像は窓の外のともし火を消す強さはなかった。ともし火も映像を消しはしなかった。

高慧勤 (1985)

- (6) Yuánlái , mànǎ fēngliúguǐ de rén , dàduō méiyǒu fēngliú de zīgé zì mìng
原 来 , 谩 骂 风 流 鬼 的 人 , 大 多 没 有 风 流 的 资 格 ; 自 命
fēngliú de rén , yě dàduō méiyǒu zīgé fēngliú
风 流 的 人 , 也 大 多 没 有 资 格 风 流。

元来放蕩家を悪くいう人の大部分は放蕩をする資格のないものが多い。また放蕩家をもって自任する連中のうちにも、放蕩する資格のないものが多い。

同上

上記の例(5)が示すように、“没有减弱窗外的灯火”と“没有把映像抹去”は広い意味で類似性が見られるため、“也”はその前の“灯火”を取り立て、“也”の後にポーズを入れるべきである。一方、例(6)の“也”はその前の“自命风流的人”を取り立てるが、“也”はそれと結びつくのではなく、その後の要素とポーズなしで発音される。

このように、「内包スコープ」の場合、“也”の後にポーズが置かれる時と置かれなくてもよい時が存在するが、この場合は“也”の前後に現れる音韻的境界は必ずしも義務的でなく、一意的には決定されないようである。この場合の境界の変異は、例えば取り立てられる部分の長さや話者の発話習慣などといった「非義務的な」条件に、左右されているかもしれない。詳細については今後の課題にする。

1.2 “也”の変調について

現代中国語の声調は4種類あり、それぞれ“阴平”(陰平)、“阳平”(陽平)、“上声”(上声)、“去声”(去声)と呼ばれている。(中国語の初歩文法書や語学教育現場では、「一声」

「二声」、「三声」、「四声」とも呼ばれている。)日本語は高低アクセントで、結びつく単語によって、アクセントが変わり得るが、中国語の声調は固定的で、結びつく単語による声調の変化はほとんどない。ただ、ある特定の声調と結びつくと、声調が変化する場合も存在する。このように、中国語では、次に来る語によって前の語の声調が変化する規則があり、これを変調と呼ぶ。変調には主に「三声の変調」、「一」の変調」と「不」の変調」の3種類がある。本稿は三声の“也”の変調に注目する。三声の変調について、赵元任(2002)は以下のように指摘している。

阴阳去三声是没有变化的。国音里只有一个上声的变化比较复杂一点。上声的变化，也只有两条规则。第一条上声跟上声相连，前头的上声变成阳平。第二条规则是上声跟别的字相连起来，它就不像独立的时候带个上升的尾子，而把这个尾子去掉了。这种调叫做半上声。

「陰平」、「陽平」、「去声」の三つは変化しないが、中国語音の中で「上声」の変化だけはやや複雑である。「上声」の変化には二つの規則がある。一つは「上声」と「上声」が連続している場合、前の「上声」は「陽平」に変わる。もう一つは、「上声」の後に他の声調が続く場合、単独で発音される「上声」と異なって、前半を低く押さえたまま、最後を上げない。これを「半上声」という。

(P.429)

赵元任(2002)によれば、三声と三声が連続して発音する場合、前の三声は二声のような声調に変化するという現象が存在する。

上の図2が示すように、音の高低を5段階に分け、低い順から1～5までの数字で四声を示すと、「一声」は55、「二声」は35、「三声」は214、「四声」は51になる。二つ三声が続く場合、前の三声(214)は二声(35)に変わる。次の例は二つの三声が連続して発音される場合の例である。

(7)a (他是日本人,)「我」也 | 是日本人。

彼も私も日本人です。

郭春貴 (2001) P.155

b (我是歌手。)我(|)也是「日本人」。

私は歌手でもあり、日本人でもある。

- c (她是美国人,)「我也|是日本人」。我们都是外国人。
- d (她是美国人,)「我|也是日本人」。我们都是外国人。
- e 我也是日本人。

上記例(7)における“也”は「直前スコープ」の場合、例(72a)が示すように、“也”の後にポーズが置かれ、“也”はその前の要素“我”とポーズなしで発音される。三声“我”と“也”は結びつく場合、前の“我”は三声から二声に変化する。“也”の声調はそのまま変わらない。「直前スコープ」の場合、“也”の後にポーズが必要であるため、“也”は必ず三声で発音される。一方、例(72b)では、“也”はその後の要素“日本人”を取り立て、「後方スコープ」に属している。この場合、“也”とその前の要素“我”との間にポーズが置かれ、“我”の声調はそのまま変わらない。“也”の声調はその後の単語の声調によって変わる。“也”の後は三声であれば、“也”は二声に変化し、“也”の後は三声以外であれば、“也”は半三声に変わる。

「内包スコープ」の“也”の場合、例(72c)、例(72d)が示すように、ポーズが“也”の後に置かれる場合もあれば、“也”の前に置かれる場合も存在する。“也”は前の単語と音韻的に結びつくかどうかによって、声調の変化が決められる。

さらに、三声が三つ連続する場合もあり得る。次の例は三声が三つ続く場合の例である。

(8) a ^{Nǐ yě bǎ nàběnshū kàn wán le ma}
你 也 | 把 那本书 看 完 了 吗?

君もあの本を読み終わったの?

b ^{Nǐ yé bǎ nàběnshū kàn wán le ma}
你 | 也 把 那本书 看 完 了 吗?

君はあの本も読み終わったの?

君はあの本を読み終わりもしたの?

c ^{Nǐ yě bǎ nàběnshū kàn wán le ma}
你 也 把 那本书 看 完 了 吗?

君もあの本を読み終わったの?

君はあの本も読み終わったの?

君はあの本を読み終わりもしたの

上記の例(8)における“你”、“也”、“把”はすべて三声で発音される漢字である。“也”は「直前スコープ」の場合、例(73a)が示すように、“也”の後にポーズが置かれ、“也”の声調はそのまま変わらないが、“你”は二声に変わる。一方、“也”は「後方スコープ」の場合、“也”の前にポーズが置かれ、“你”の発音はそのまま変わらない。“也”とその後の要素“把”は連続して発音され、“也”は二声に変わる。例(73c)が示すように、“也”の前後にポーズがない場合は、“你”と“也”は両方とも二声に変わる。

以上をまとめて言うと、“也”が含まれる多義文で、取り立てスコープの種類によって、ポーズの置き方も異なってくる。“也”の取り立てスコープは「直前スコープ」の場合、“也”の後にポーズが置かれるのに対し、「後方スコープ」の場合、“也”の前にポーズが置かれ、“也”はその後の要素とポーズなしで発音される。「内包スコープ」の場合は、先に指摘した通り、両方が可能だと考えられる。

2 「羅輯重音」と意味の関係について

拙稿の冒頭で述べたように、コンテキストが不明な場合、“也”が含まれる文に多義性が生じるため、書面では、“也”が取り立てる要素を確定することが出来ず、文の意味が曖昧になってくる。しかし、実際の会話の中で、話し手は自分の表現意図によって、「羅輯重音」を付与すると、“也”の取り立てる要素を確定することができ、文の曖昧性がなくなる。この視点から、拙稿の冒頭で挙げた例文をもう一度検討することを試みる。

(9) a Guòxiērizi tā yě yào qù Hángzhōu
过些日子 他也要去 杭州。
いく日かしたら彼でさえも杭州へ行く。

(9) b Guòxiērizi tā yě yào qù Hángzhōu
过些日子 他也要去 杭州。
いく日かしたら彼は杭州へも行く。

(9) c Guòxiērizi tā yě yào qù Hángzhōu
过些日子 他也要去 杭州。
いく日かしたら彼は杭州へ行きもする。

前述したように、「羅輯重音」の位置はフォーカスによって規定されるため、「羅輯重音」が移動し、フォーカスも変化する。上記の例(74a)～(74c)が示すように、主語、目的語と動詞にそれぞれ「羅輯重音」が付加されれば、それが“也”の取り立てる要素となる。楊立明(2003)は“也”の「語義指向」と韻律構造について、次のように述べている。「“也”は典型的な『双方指向性』を持つ副詞で、『語義前指』³の場合は文ストレスが文頭にかかり、『頭高型』の韻律構造をなす。『語義後指』の場合は文ストレスが文末に移り、『尾高型』の韻律構造をなす。」

中国語の初歩文法書では、「重音」とは音を強くするというふうに教えられている。しかし、「重音」は音の強さだけではなく、例えば、ピッチパターン、持続時間の長さ等にも変化をもたらす。「羅輯重音」の音声的特徴について、趙元任(1980)は以下のように指摘して

³ 楊氏が言う『語義前指』、『語義後指』は本稿における「直前スコープ」、「後方スコープ」に相当する。

いる。

轻重音在中国语言里头，影响声调……所谓叫特别加重，并不是说得响一点儿、声音大一点儿、用劲一点儿，而是说时间长一点儿、音程大一点儿，就是低的更低，高的更高……虽然强度固然略微加强，可是这个是在其次，跟别国所谓重音以加强为主的不同一点儿。一句话里如果有特别加重的时候，大概其余的部分就稍为跟着缩小一点儿。就是时间短一点儿、音程窄一点儿。

中国語では、「羅輯重音」は声調に影響を与えている。「羅輯重音」というのは音量を大きくする、力をもっと入れるということではなく、持続時間を長くする、音域を大きくするということである。つまり、低い音をもっと低くし、高い音をもっと高くするという意味である。やや強くなるが、やはり強さは副次的なものだ。「重音」は主に「音を強くする」を意味する他の言語とは異なり、中国語では、一つの文の中のある所に「羅輯重音」が存在すれば、他の部分は持続時間が短くなり、音域が小さくなる。

その他に、「羅輯重音」の音声的特徴について、楊立明(2003)が「ピッチ上限の上昇、ピッチレンジの拡大及び後続語との「ピッチ落差」が「羅輯重音」の特徴である」と指摘している。

以上の分析から、“也”が含まれる多義文で、「羅輯重音」が文の意味に影響を与え得ることが判明する。それに並行して、「羅輯重音」の音声的特徴に関する先行研究を紹介した。二つの重音の詳細な音韻的特徴についてはなお一層詳察する必要がある。

3 副詞の多義性のより一般的な例

副詞“也”の他にも、“又”、“都”、“就”などの副詞がこのような多義性を持ち、以下のような例(10)から例(7)が示すように、これらの副詞が用いられる文には曖昧性が生じている。

(10) Tā yòu lì gōng le.
他 又 立 功 了。

a 彼はまた手柄を立てた。

b 彼も手柄を立てた。

“他又立功了”という文は、二通りの意味に解釈できる。つまり、「彼が手柄を立てた」という状況が再び起こったというような場合と、「手柄を立てた」という事態において、彼以外の人と彼が類似しているというような状況である。この文が二つの意味を持つのは、“又”という語に、「動作・行為が再び起こった」と「類似事態の追加」という二つの意味があるからである。「羅輯重音」を“又”に付加すると、焦点は「また」というところに置かれ、例文(10)はaの意味に解釈される。“又”は「重複」の機能を働く。一方、「羅輯重音」を“又”の前に位置する名詞句“他”に置かれると、焦点は「彼も」というところに置かれ、“又”は「追加」の意味を表す。

(11) Tóufà dōu bái le.
头发 都 白 了。

a 髪の毛は全部白くなった。

b 髪の毛さえも白くなった。

例文(11)のような副詞“都”が含まれる文にも多義性が観察される。“头发都白了”という文における“都”が二つの意味に解釈される。“都”の基本義は範囲を表し、前で言及されている人や物の全部を統括することである。“都”がこの意味に解釈される場合、“头发都白了”という文は「髪の毛は全部白くなった」という意味になる。一方、“都”がよく介詞“连”，副詞“甚至”，数詞“一”と組み合わせて用い、ある状況を強調する働きもある。“连…都…”というパターンで使われる場合、“连”がよく省略される。よって、“头发都白了”という文には「髪の毛さえも白くなった」という意味も容認可能である。「羅輯重音」が“都”の前の名詞句“头发”に付加されると、例文(11)の焦点は「髪の毛」に置かれ、bが示すように、「髪の毛さえも白くなった」という意味になる。一方、「羅輯重音」が“都”に付加すると、焦点は範囲を表す「全部」になり、例文(11)はaの意味に解釈される。

(12) Tā yìtiān jiù hē liǎngbēi chá.
他 一天 就 喝 两杯 茶。

a 彼は一日にわずか2杯しかお茶を飲まない。

b 彼は一日にお茶を2杯も飲む。

範囲副詞“就”は数量や動作などの範囲を表し、「少ない」と「多い」という二つの範囲を表すことができ、多義性が見られる。上に挙げた例文“他一天就喝两杯茶”について、郭氏⁴によれば、範囲副詞“就”は数量の「多い」も「少ない」もどちらも表せるため、こ

⁴ 『誤用から学ぶ中国語』郭春貴 白帝社 P.175 参照

の文は「彼は一日にわずか2杯しかお茶を飲まない」とも「彼は一日にお茶を2杯も飲む」とも取れる。さらに、郭氏が「これは“就”の厄介なところで、書面上では判断できません。言う時のアクセントを置く場所によって区別します。「少ない」を表す時にはアクセントを“就”に置き、「多い」を表す時には、“就”に置かず、“就”の直前の名詞や数量詞に置きます」と述べ、アクセントの置く場所から“就”における多義性の解消を試みた。

以上をまとめると、ポーズの有無や「句重音」の有無が文の意味に影響するということが分かった。“也”の取り立てスコープは「直前スコープ」の場合、“也”の後にポーズが置かれる。“也”の前にポーズが置かれる場合もあれば、置かれない場合もある。一方、「後方スコープ」の場合、“也”の後にポーズなしで発音されるのが普通である。「内包スコープ」の場合は両方が可能である。

また、“也”が含まれる多義文で、「羅輯重音」が文の意味に影響を与え得ることが判明する。

結論と今後の課題

“也”の意味解釈にはポーズが影響するということが分かった。“也”の取り立てスコープは「直前スコープ」の場合、“也”の後にポーズが置かれる。“也”の前にポーズが置かれる場合もあれば、置かれない場合もある。一方、「後方スコープ」の場合、“也”の後にポーズなしで発音されるのが普通である。「内包スコープ」の場合は両方が可能である。

なお“也”の直後に音声的（または韻律的規則として）ポーズが存在するかどうかについては、特に三声の音節が“也”に後続する場合、“也”の変調によって明示的に知ることができる。

また、“也”が含まれる多義文で、「羅輯重音」が文の意味に影響を与え得ることが判明する。それに並行して、「羅輯重音」の音声的特徴に関する先行研究を紹介した。「羅輯重音」の詳細な音韻的特徴については今後の課題としてなお一層詳察する必要があるだろう。

本稿では詳しく触れなかったが、中国語には副詞“也”の他にも、“又”、“都”、“就”などのような多義性を持つ副詞が存在する。それらの多義性がどのような特徴を持っているのかは興味深い話題であり、これもまた今後の重要な課題となるであろう。

参考文献

遠籐佳代子 2003「強調を表す“连～都”“连～也”の差異についての考察」金沢大学中国

語学中国文学教室紀要 第6輯

- 近藤健二 「ふたつの語順が意味すること」『言語文化論集』
- 佐治圭三 1991 『日本語の文法の研究』 ひつじ書房
- 崔春愛 2006 「中国語における“也”」『昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究』第一集 昭和女子大学
- 武田みゆき 2004 「“我也真高兴”の非文性について」『中国語学と日本語学の視点』 白帝社
- 高橋弥守彦 1991 「关于表示强调的“也/都”」『云梦学刊』云梦学刊编辑部
- 高橋弥守彦 1991 「2つの構文の中の“也/都”について」大東文化大学語学教育研究所。
- つくば言語文化フォーラム編 1995 『「も」の言語学』 ひつじ書房。
- 寺村秀夫 1991 『日本語のシンタクスと意味』 くろしお出版。
- 湯延池 1987 『中国語変形文法研究』 白帝社。
- 中川正之 1982 「中国語 とくに「も」に対する一音節副詞をめぐって」『講座日本語学』第11巻 明治書院。
- 中俣尚己 2008 「日本語のとりたて助詞と並列助詞の接点 「も」と「とか」の用法を中心に」大阪府立大学人間社会学部。
- 沼田善子 1986 「第2章とりたて詞」奥津敬一郎他『いわゆる日本語助詞の研究』凡人社
- 沼田善子・徐建敏 1995 「とりたて詞「も」のフォーカスとスコープ」『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 馮蘊澤 2007 『中国語の音声』 白帝社
- 茂木俊伸 1993 「とりたて詞「まで」「さえ」について 否定との関わりから」筑波大学国語国文学会
- 楊凱榮 2002 「「も」と“也” 数量強調における相違を中心に」『対照言語学』 東京大学出版会
- 楊立明 2002 「中国語の文ストレス(重音)の音声的特徴」 早稲田大学語学教育研究所紀要 第57号
- 楊立明 2003 「中国語「岐義文」の意味判定における文ストレスの役割」 早稲田大学語学教育研究所紀要 第58号
- 劉月華等 1988 『現代中国語文法総覧 上』 くろしお出版
- 劉月華等 1991 『現代中国語文法総覧 下』 くろしお出版

- 崔永华 1997 「不带前提句的“也”字句」『中国语文』1997年第1期
- 邓根芹·焦秀凤 2004「副词也的句法、语义、语用分析——拷贝型副词研究之二」常熟高专学报 第5期
- 杜玲莉 2006 「日语「も」与汉语“也”的用法对比分析」乐山师范学院学报 第21卷第4期
- 范熙 2007 「副词“也”的主观性分析」华南师范大学硕士学位论文。
- 方梅 1995 「汉语对比焦点的句法表现手段」『中国语文』247 中国社会科学出版社
- 金成姬 2006 「数量強調における「も」と「也」の相違について」『东方论丛·中日语言翻译与跨文化交际』世界知识出版社
- 侯学超 1998 『现代汉语虚词词典』 北京大学出版社
- 李宗禾 2006 「台湾人日本語学習者におけるとりたて詞「も」の習得——日本語母語話者との比較を通して」
- 刘丹青·徐烈炯 1998「焦点与背景，话题及汉语“连”字句」『中国语文』265 中国社会科学出版社
- 刘耀华 1998 「谈副词也与又在事理逻辑上的差异」『汉字文化』1998年第1期
- 卢福波 1999「“也”的构句条件及其语用问题」华东师范大学学报（哲学社会科学版）南开大学
- 吕叔湘 1980 『现代汉语八百词』商务印书馆
- 陆俭明 马真 1999 「说“也”」『现代汉语虚词散论』语文出版社
- 全国斌 2004 「句法框架中非同义词语的中和现象——从“都”和“也”的中和谈起」郑州大学学报（哲学社会科学版）第37卷第2期
- 宋欣桥 2004 「普通话语音训练教程」 商务印书馆
- 徐霞 2003 「表类同叠加的副词也的语义指向考察」天中学刊 第18卷第4期
- 徐世荣 1980 『普通话语音知识』文字改革出版社
- 赵元任 2002 「赵元任语言学论文集」 商务印书馆
- 张建华 1995 「「だけ」「しか～ない」と“只”について」言語·地域文化研究第1号
- 张建理 2007 「汉语“也”的认知研究」浙江大学学报（人文社会科学版）第37卷第5期
- 郑旭 2007 「“也”字歧义句的逻辑分析」重庆工学院学报（社会科学）第21卷第12期
- 杨亦鸣 1988 「“也”字语义初探」『语言研究』1988年第4期
- 余弦 2001 「从句法看汉语“也”和日语「も」的预设——兼谈“也”与「も」的对译」天

津外国语学院学报 2001 年第 1 期

Yuen Ren Chao 『A Grammer of Spoken Chinese』 2000 株式会社ゆまに書房